

— 目 次 —

■健康特集

- ・県民みんな健康づくりを！
- I 健康の確保と増進について……………8
—県の考え方—
- II 保健医療対策はこのように……………11
—関係者や住民の考え方—
井尾重雄・内藤友治・小山和作
向井守男・井野ケサヨ
- III 今年度の県の施策について……………14
—3対策紹介—
- ・保健・休養の場として県有林を開放
鞍岳・魚貫崎環境林整備事業……………26
- ・スポーツに親しみ・スポーツを楽しもう
あなたにはどのスポーツがピッタリか……………28
- ・秋の味覚・熊本のくり
しいたけ・とうもろこし
生産の現況・流通・課題と対策……………30
- ・あなたの栄養のバランスは？……………25

■条例解説

- 熊本県自然環境保全条例……………32
- <この人と30分>……………立石一真……………33
- 今日・明日の熊本経済……………安藤 正……………36

■グラビアページ

- ・<ふるさと心の心>……………一本の楠……………3
- ・健康はみんなの願い……………17
- ・からだを大いに鍛えよう……………18
- ・鞍岳・魚貫崎環境林整備事業……………19
- ・カラー熊本……………20
- ・深まる日中友好と熊本県……………22
- ・定期空路開設・熊本—宮崎—高知 2時間5分……………24
- ・工場建設協定・公害防止協定調印ラッシュ……………37
- ・上手に利用しましょうシンボルゾーン……………38

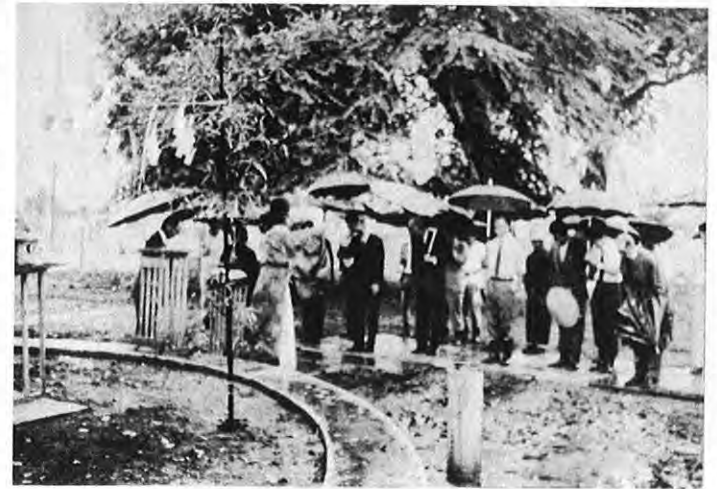
随 想 欄……………6

百崎素明・岡村佐規子・汐見純一郎

表紙は、「キジ馬」昔平家一門が戦いに敗れ、人吉の奥に移り住み、都での栄華の夢を慰むるべく作ったといわれる。人吉産



▲楠は熊本県の県木です



▲蘇生を願って→雨中行われる神事

一本の楠

樹木の生命は人の一生よりも遙かに長い。だから、私たちが緑蔭に憩うとき、その樹をみずからの手で植えた人はすでにこの世にいない。また、私たちが何気なく庭の片隅に植えている樹も梢を仰ぐまでに育ったとき、緑蔭に集うのはまだ生をうけていない次の世代の人たちだ。

花畑公園にある一本の楠の大きさが枯死の恐れがあるとして市民の注目を浴びるようになったのは干天が続いたこの夏のことである。

この樹を植えた人は誰か、いまとなっては明らかではない。樹齢約六百年と推定されているから足利義満が征夷大將軍となり、熊本では懐良親王を擁し、菊池氏が累代の忠誠を尽していたころのことであつたらう。

この地は、代継神社の跡地であつたといふ。

どのような動機で、誰が、いつ、ここに楠を植えようと思ひ立つたか分らないが、ともあれ、誰かがここに土を掘り、楠の苗木をいくつか植えた。幹を右にし左に回し、その姿を見定め、水を注ぎ土を伏せた。己れのたかさに近い苗木を植え終つたその人は、楠の並びを心ゆくまで静かに見つめたであらう。

苗木は育つた。楠は、或る日、正面に築城された天守閣を眺め、参勤交代の列を見た。西南役のころには、最早、城攻めの薩軍の楯になるまでに幹を太くした。

やがてこの楠は、電車や電灯を初めて見、それから、果てなく続く出征軍人の列を送り、また、或る夜は空から焼夷弾の火が波のように降り注ぐのを見ただであらう。そして、町を囲む火焔のなかに、みずからの身を動かすこともできずじつと耐えていたであらう。

火が鎮められたとき、己れのほかは尽く灰燼に帰したなかで、黒焦げのま、雄々しく立っている楠の仲間を見たであらう。

いま、この楠は、少なからぬ危難に耐え抜き、枝を心ゆくまで四方に張り、さわやかな秋風を市民に送る。

思うに「森の都」と呼ばれる町はいち日のうちに成るものではない。これらの樹が永い歴史を経て群り、たくましく根を張り、梢には鳥たちの鳴き交すこえを響かせ、多くの人を緑蔭に集め、市民のところに樹の姿がいつとはなく住みつくるとき、誰言うことなく「森の都」が生まれるのだ。

次の世代がこの樹に寄り沿うときがくるまでのちを承らえてほしい。そして六百年に見たことを次の世代の若ものたちに語ってほしい。